

しらかべ



創立百周年ロゴマーク

2017年7月20日 人権・同和教育部発行

盛夏の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今月号は6月に行った「人権・同和教育 LHR」での学習内容を学び終えた生徒の感想を中心に紹介します。ぜひ、ご家庭でお読みいただければ幸いです。また、LHR後に家庭で話し合った内容や「しらかべ」をお読みいただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などがありましたら、別紙返信用紙にご記入の上、1学期保護者懇談の折に担任の先生にお渡しください。



「第64回四国地区人権教育研究大会」

7月13・14日に愛媛県松山市において第64回四国地区人権教育研究大会が開催されました。昨年の大会で「生徒が主体的に取り組む人権・同和教育」と題して報告してから早1年が経ちました。今年は、坂出市が行政としての取り組み内容などを報告しました。大きなホールで、行政関係者、隣保館関係者、学校関係者などいろいろな方が集まり、立ち見も含めて両日とも500名を超す参加者がいる中で議論がなされました。総括討論の中で、「人の考え方はいろいろある。自分と違う意見が出たときにそれは違うと一方的に反論すると前に進まない。根深い同和問題があるのも事実。みなさんいろんな経験を積み重ねてきた。人と人がつながり合う地域であってほしい。みんながお互いの信頼関係を築き、作り上げようとする地域。これが本当の人権教育の目標ではないかを感じる。」という意見がありました。このことは学校内でも言えると思います。坂出高校では、報告後も継続して、生徒が主体的に学ぶ人権・同和教育を推進しています。これからも生徒と先生がともに学び合う人権・同和教育を推進していきますので、ご理解ご協力よろしくお願ひします。

8月は「同和問題啓発強調月間」です

香川県人権啓発推進会議では、1965(昭和40)年8月に「同和对策審議会答申」がなされたことから、8月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。同和問題は、我が国社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分差別により、今日でも、憲法で保障されている基本的人権が十分に保障されていないという重大な社会問題です。同和問題の解決を図るためには、すべての人々がお互いの人権を大切にする事の重要性を正しく理解し、行動することが必要です。また、今回のキャッチコピーは「時は、解決してくれない。人しか、解決できない。」です。差別をするのも、人。差別をなくせるのも、人。そっとしておくだけでは、差別は自然にはなくなりません。

この夏休みを、お子さまと一緒に人権について理解を深めるきっかけにしてみませんか。



1年生一学期の取り組み

■ 人権スローガンを作ろう

6月7日に、入学後、初めてとなる人権・同和教育 LHR を行いました。HR 委員が司会進行し、「人権とは何か」を改めて考えるとともに、クラス独自の人権スローガンを作成しました。自分が今欲しいものを各自で列挙した後、今度はグループになって、誰にとっても「必要不可欠なもの」を考えました。自分中心の考えから他者への思いやりへと視点を広げていくことをめざしました。その後グループで「過ごしやすいクラスになるための5か条」を考え、それをもとにクラス独自の人権スローガンを決定しました。事後に、“個人的な欲求”から集団生活で不可欠な“他者への思いやり”に思い至る流れが自然にできなかったという反省点も挙げられました。ただ、それまであまり関わる機会がなかった人たちとグループで話し合い、意見をまとめるという活動が楽しかったという意見が多くみられ、クラスで交流を深められたことは、今回の LHR を行って良かった点の一つでした。クラス全体が団結し、よりよいクラスづくりをめざす良い機会となっていたと思います。以下に、今回決定したクラスの人権スローガンと、事後アンケートから生徒の感想をいくつか紹介します。

《クラスの人権スローガン（一部）》

「綺麗な心と愛を持って」

「みんな仲良くレスポンス」

「思いやり」

「考えるな。感じろ。ジャスティス ～親しき仲にも礼儀あり～」

《生徒の事後アンケートより》

- みんなと話すよい機会になりました。話し合ってみて、個々に考えていることの違いに気が付きました。だから、他人を認めて仲良くしていくことが大切だと思います。
- 相手が何をされたら嫌かをしっかり考えて行動していきたいと思います。
- 個性あふれるクラスで、皆の仲が良いと改めて感じることができました。全員の個性を尊重し、一人でも傷つくことがないようなクラスにしたいと思います。
- 一人ひとりの意見は違っていても、クラスを思う気持ちは変わらないのだなと思いました。自分の思ったことを素直に伝えることができる雰囲気があるのはとてもいいことだと思います。今日のことが無駄にならないよう、今のいいクラスがこれからも続くといいなと思っています。
- 自分のことだけでなく、落ち込んでいる人や傷ついている人がいたら、その人の立場にたって、気持ちを考えてあげられるように、心がけたいと思います。

■ さまざまな差別Ⅰ ～ハンセン病回復者を取りまく問題（第1回）～

7月6日、「ハンセン病とその差別の歴史」について、学びました。2年前に NHK で放送された「探検バクモン～ハンセン病を知っていますか」と資料をもとに、ハンセン病とはどのような病気、いかに不当な差別と偏見を受けてきたか、また、らい予防法が廃止されてからも、現在になお残る問題について学習しました。中学校で学んでいる生徒も多く、その再確認と新たな学びができました。8月23日には各クラスの HR 委員が、高松市にある国立療養所大島青松園を訪問し、現地学習会に参加して理解を深め、9月に行う2回目の LHR につなげていく予定となっています。